

# 「共通事項」を考える（3）（小学校図画工作）

## ～ 第3学年及び第4学年 ～

今回の改訂で新設された「共通事項」について考えていきます。

まず、「共通事項」について、再確認しましょう。  
学習指導要領解説には、次のように書かれています。

表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質や能力を〔共通事項〕として示す。指導において、自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これを基にイメージを持つことが十分に行われるようにする。

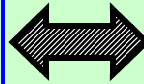
（小学校学習指導要領解説図画工作編 第1章総説 3 図画工作科改定の要点 (2)内容の改善 ウ共通事項の新設）

つまり、「共通事項」とは

### 「表現及び鑑賞の活動で共通に必要な資質や能力」

であり、具体的には次の2つの能力となります。これらは相互に関連し合っています。

（ア）児童が、見たり触ったり持ち上げたり動かしたりして、主体的・能動的に対象に関わり、造形的な特徴（形や色、線や面、動きや奥行き）をとらえる能力



（イ）造形的な特徴を基に、心の中に、像や全体的な感じ、情景、姿を思い浮かべるなどして、自分のイメージを持つ能力

※ 相互に関連とは、（ア）から引き続いて（イ）が発揮されたり、（イ）を基に（ア）の形や色をとらえたりするということです。

さらに、小学校学習指導要領解説図画工作編のP.19～20に、次のように詳しく書かれています。（要約）

- 共通事項は、表現及び鑑賞の活動の中で、共通に働いている資質や能力であり、造形活動や鑑賞活動を豊かにするための指導事項
- 形や色からくるイメージなどは、表現及び鑑賞の活動で発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力を働かせる際の具体的な手がかり
- 「共通事項」が表現や鑑賞の領域の活動などの全体にかかわる事項
- 共通事項で示している内容は、対象に対して感性を働かせる児童の具体的な姿であるとともに、形や色、イメージなどを言葉のように使いながら生活や社会と豊かに関わるコミュニケーション能力の基盤となるもの

### 発達段階ごとの共通事項

学 年	（ア）	（イ）
第1学年及び第2学年	自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。	形や色などを基に、自分のイメージを持つこと。
第3学年及び第4学年	自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。	形や色などの感じを基に、自分のイメージを持つこと。
第5学年及び第6学年	自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つこと。

### 第3学年及び第4学年の〔共通事項〕

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。
  - イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージを持つこと。

#### 1 第3学年及び第4学年の児童の造形要素に対しての実態

- 対象や出来事に対して自分の気持ちや考えを具体的にもつようになります。
  - ※ 形や色を単に区別するのではなく、三角形は鋭い感じ、赤は元気な感じ等対象の感じまでとらえることができるようになります。
- 自分の行動を理由を付けて説明したり、そのときの気持ちを併せて示したりできるようになります。
  - ※ 事実と気持ち、原因と結果などを関連づけられるようになります。
- イメージについては、自分の表現を一定のイメージでまとめたり、自分のイメージについて説明したりできるようになります。

このような実態を踏まえて、次の〔共通事項〕を指導します。

「ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。」について

これは、児童が自らの感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの様々な感じをとらえることを示しています。

「自分の感覚や活動」とは、絵の具を混ぜたときに変化する色をとらえる感覚、彫刻刀で板を彫るときのサクッとした動きの感覚、のこぎりで板材を切るなどの行為や活動などのことです。

「形や色、組合せなどの感じをとらえる」とは、このような自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの様々な感じをとらえることを示しています。

例えば、

「形の柔らかさ」	「色の冷たさ」	「色の組合せによる感じ」
「面と面の重なりから生まれる前後の感じ」	「材料や用具」	

#### 指導のポイント

- 児童がとらえている形や色、組合せなどの感じを明確にしながらか学習過程を展開するようにしましょう。例えば、
  - ※ 児童が、絵の具を混ぜてできた色をどう感じたのか、児童自身が気づき、表し方を工夫するよう働きかけましょう。
  - ※ 児童が、彫刻刀で彫った線などをどう感じたのか、児童自身が気づき、表し方を工夫するよう働きかけましょう。

### 「イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージを持つこと。」について

これは、自分の感覚や活動を通してとらえた形や色などの感じを基に、児童が自分なりのイメージをもつことを示しています。中学年の段階での「自分のイメージを持つ」とは、形や色の感じ、自分の思いや経験など、様々な手がかりを基にイメージを持つことを示しています。

例えば、

- 材料が白くてふわふわしていたからウサギを思い付いた。
- 粘土に穴を開けたら、穴の重なりや空間がおもしろかった。
  - ※ 形や色と、イメージとの関係を低学年よりも具体的にもつことができます。

### 指導のポイント

- 「自分のイメージ」と「形や色の感じなど」との関係を考えるような手だてを行いましょう。
  - ※ 児童が思ったことを簡単に書き留めさせる。
  - ※ 友人と話し合う場を設けるなど、交流する場を設ける。
  - ※ 教師は、児童の姿や文章からとらえたり、尋ねたりするなどして、常に児童のイメージを把握することが重要です。

### 留意点

- 上記、ア、イを実現するために次のことに配慮しましょう。
  - ※ 形をいくつも作る時間を確保しましょう。
  - ※ 土、墨、インク、染料など、様々な材料で色をつくる経験を積みませましょう。
  - ※ 児童のイメージに共感し、寄り添う姿勢で指導を工夫しましょう。

などです。



今回は、第5学年及び第6学年の「共通事項」について、具体的に考えていきたいと思えます。

10月25日（金）頃アップの予定です。